

令和3年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第七小学校 第4学年

	授業における課題や学力調査資料から見た課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の読み書き、指示語・接続語など言語に関する基本的な知識・技能を定着させること。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手が伝えたいことを的確に捉えさせること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新出漢字の練習と週1回の小テストの実施を継続し、漢字の読み書きの定着を図る。</li> <li>学校図書館を活用した様々な言語活動を授業に取り入れ、自主学習ノートを用いて個々の課題や興味に合わせた家庭学習をしたりすることで、日常的に言葉を使う習慣を付ける。</li> <li>朝学習の時間にタブレットを活用する時間を設け、ローマ字入力の技能を高める。</li> <li>初発の感想を活用した授業を行い、目的意識を児童にもたせることで、課題に対する答えや相手が伝えたいことを明確に捉えられるようにする。</li> </ul>	<p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>使用できる漢字や言葉が増えてきたため、手だては有効だったと言える。しかし、漢字の書きについては、個人のもつ特性が原因により何度練習をしても定着が難しい児童が多かった。</li> <li>タブレット端末の意識的な活用によって、ローマ字入力の技能を高めることができた。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全体の7割の児童に相手が伝えたいことを正しく理解する力が身に付いて、課題として残った3割は、問題をしっかりと読まずに答えてしまったり、文意が理解できない、大事な部分(要点)が分からなかったりしている。落ち着いて問題に答えるよう促したり、何度も文を読み返したりできるように繰り返し指導を重ねる。</li> </ul>
社会	<p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料から必要な情報を読み取り、社会的事象の相互の関連を捉えさせること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット端末を活用し、児童が資料を目にする機会を増やす。</li> <li>グラフや表の読み方(表題、縦軸、横軸、全体を見て言うこと、比較して考えられることなど)を繰り返し指導する。</li> <li>算数や総合的な学習など他教科とも関連付け、繰り返し資料を読み取る練習をさせる。</li> </ul>	<p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グラフや表の読み方を繰り返し指導することで、資料から必要な情報を読み取る力を高めることができた。しかし、一つ一つの資料を読み取れても、提示される資料が複数になると、必要な情報を選んだり、関連付けたりするのが難しい様子が見られるため、今後も継続して指導を行う。</li> </ul>
算数	<p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な計算力を確実に定着させること。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項を基に、計算の仕方や解決方法を表現させること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝自習や家庭学習を意図的・計画的に行う。また、掲示物を活用して計算力の向上を図るなど、その他の工夫も図っていく。</li> <li>導入で復習問題に取り組み、自信をつけるとともに関心を高める。</li> <li>自らの考え方を伝える、表現する機会を多く設定するとともに、児童が教え合う場面を増やす。</li> </ul>	<p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定着に時間がかかる児童が多いが、計算力は高まってきている。継続して指導していく必要がある。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決に向けて教え合ったり、共に考えたりする力を身に付けさせることができた。しかし、ノートに書き表す、発表などの表現力にはまだ課題がある。今後も表現機会を多く設定することで力を高めていく。</li> </ul>
理科	<p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>器具や機器などを正しく扱いながら実験や観察をし、結果を分かりやすく記録させること。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想できるようにすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>初めて使う器具や機器の使用方法を教科書の巻末を参考に、確実に指導する。</li> <li>ワークシートを活用し、結果を表やグラフにわかりやすく記録することを繰り返す。</li> <li>問題解決の過程において必ず予想を立ててから実験・観察するように習慣付ける。その際にどこに着目したらよいのか示したり、自分の生活経験を振り返ったりさせる。</li> </ul>	<p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>示した手だてを行うことで、全体の9割の児童が器具や機器などを正しく扱って実験や観察をする力が身に付いた。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>8割の児童に自ら予想や仮説をたてる力を高めることができた。2割の児童は、教師側から既習事項やヒントとなる生活経験の声かけを行うことで、自分の考えをもたせることができた。</li> </ul>
音楽	<p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能を身に付けさせること。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音楽の仕組みを用いて、まとまりある旋律を考えさせること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師や友達との演奏を聴いたり見たりすることで、楽器の適切な演奏の仕方を身に付けることができるようにする。</li> <li>動画を活用し、正しい楽器の奏法を学べるようにする。</li> <li>音楽の仕組みを生かした音やフレーズには、どのようなよさや面白さがあるのかについて、全体で共有する場を設けるようにする。</li> </ul>	<p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音色や響きに気を付けながら、正しい奏法で演奏する技能を身に付けることができた。互いの演奏を聴き合ったり、動画を活用したりしたことが有効だった。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音楽の仕組みを用いて、まとまりのある旋律を考えることができた。タブレットを活用し、全体で旋律を共有しながら音楽づくりをしたことが有効だった。</li> </ul>
図画工作	<p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全に活動するための指導と環境を整えること。</li> </ul> <p>&lt;思考・表現・判断&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>動き、興行き、バランス、色の鮮やかさを基に自分のイメージをもたせること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>制作工程に合わせてそれぞれ場を設定し、スムーズに制作が進むようにする。</li> <li>表したいイメージをもてるように、絵や言葉でアイデアを描き出すワークシートを活用する。</li> <li>児童の実態に合わせて課題の難易度を調整する。</li> </ul>	<p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師が彫刻刀などの管理方法を変えたり、場所を指定したり、安全指導を徹底したりすることで子供が安全に制作させられるようになった。</li> </ul> <p>&lt;思考・表現・判断&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師がワークシートや参考作品を示すことで子供の遠近感や色彩に関する技能の高まりが構図や着色に表れた。</li> </ul>
体育	<p>&lt;思考力・判断力・表現力&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己の課題を見付け、その課題を解決するための活動を工夫するとともに考えたことを友達に伝えさせること。</li> </ul> <p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発達段階に応じた技能を身に付けさせること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の課題を見付け、技能を高めるための場を多く用意し、自分に合った場を選ぶように指導を行う。</li> <li>考えたことを友達に伝えられる児童を増やすために、運動を見合う時間を設けたり、友達にアドバイスをしたりする時間を設ける。</li> <li>基本的な動きや技能を身に付けるために、ゲームでは、ボールや用具に慣れるための運動を取り入れたり、器械運動では、感覚づくりの運動を取り入れたりする。</li> </ul>	<p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己の課題を見付け、その課題に合った活動を選んだり、工夫したりすることができるようになった。また、9割の児童が友達に運動のこつやアドバイスを伝えることができた。手だては有効だった。</li> </ul> <p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>示した手だてを行い、発達段階に応じた技能を身に付けさせることができた。しかし、器械運動では、身体が大きくなったことが原因で、前転や後転などができない児童がいたため運動の場を工夫したり、補助をしたりすることが有効だった。</li> </ul>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が問題意識をもち、主体的に考え、話し合えるようにすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分事として考えさせるために、導入でねらいとする価値項目に関係のある発問をしたり、写真や映像、音楽などを活用して資料に対する興味を喚起したりする。</li> <li>話し合いを充実させるために集団の数や方法(ペア、小グループ、尋ね歩きなど)を工夫したり、自分や相手の立場を視覚的に共有する工夫(心情円、心情カードなど)をしたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体策に挙げた工夫を実践することで自分の生活や身の周りのことを想起しながら考えられるようになった。また、問題意識をしっかりとってねらいとする価値項目について考えさせたり、話し合わせたりすることができた。</li> </ul>
外国語活動	<p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませること。</li> </ul> <p>&lt;主体的に外国語を用いてコミュニケーションをはかろうとする態度を養うこと。&gt;</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALTとのやり取りや映像や音声を活用し、外国語を聞いたり、話したりする機会をたくさん与え、教師や友達とのやり取りを通して英語に慣れ親しませるようにする。</li> <li>教師自身が積極的に英語を用いてALTとコミュニケーションをとったり、デモンストレーションを行ったりして、児童が安心して表現できる雰囲気をつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体での発表だけでなく、友達との自由な交流場面での活発な様子から、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませ、主体的にコミュニケーションをはかろうとする態度を養うことができた。</li> </ul>
総合的な学習の時間	<p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>必要な情報を収集し、蓄積させること。</li> <li>集めた情報を比較したり、関連付けたりさせること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット端末を活用して、書くことが苦手な児童も情報を記録し、蓄積できるようにする。</li> <li>学習過程の終盤に、情報を整理・分析しやすくするために、課題設定の際に学校図書館を活用して予備知識を提示したり、予想を立てさせたりする。</li> <li>調べる項目を提示し、見直しをもたせることで情報を比較したり、関連させたりできるように促す。</li> </ul>	<p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>8割の児童に必要な情報を収集・蓄積させることができた。また、複数の手段を使用して情報を集め、それらを比較する取り組みを取り入れたことで、自分にとって必要なものを選ぶ力を高めさせることができた。調べ学習とタブレット端末の活用は、有効だったと言える。しかし、課題によっては、教師側が予備知識を提示することができず、予想のない状態から調べ学習を始めなければならない学習もあった。その際、必要な情報を収集するのに時間がかりすぎたため、別の情報を提示できるようにしたり、教師側が情報量を限定したりする指導を今後すすめる。</li> </ul>

※ 枠の大きさは適宜調整して、1枚に収まるように作成してください。